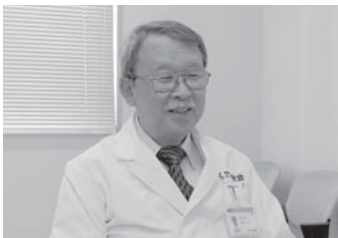


その貧血、大丈夫ですか

血液内科 造血器疾患治療開発研究所 所長

金丸昭久医師

化学療法や分子標的治療の開発など近年の血液疾患の治療は一昔に比べ格段に進歩しています。これまで白血病や骨髄不全症候群などの病態解析や造血幹細胞移植療法などの治療法開発を専門にしてきた金丸医師「今は外来での診療が中心なので、血液疾患の中で最もポピュラーな貧血について話しましょう」。



昭和43年 大阪大学医学部卒 近畿大学医学部第3内科教授から組織改編で血液腎臓膠原病内科から血液内科主任教授、輸血部長、透析部長、副院長を経て平成22年に退任。日本内科学会、日本血液学会、日本造血細胞移植学会等の功労会員。日本リンパ網系学会評議員など。

一番多い鉄欠乏性貧血

血液中の赤血球が基準値よりも減少した状態が貧血です。赤血球の中のヘモグロビンが酸素と結合して、全身に酸素を運びます。そのヘモグロビンを作る鉄が欠乏するため、赤血球が薄くなり、十分に酸素を運べなくなるのが鉄欠乏性貧血で、小球性貧血を呈します。この貧血は若い女性に多いのが特徴です。体の成長に様々な器官で血液が必要になり、さらには生理があり、多くの血液が必要なのに、食事が少なく、鉄分が不足してヘモグロビンの生産が追いつかない状態です。その結果、全身の酸素が不足し、特に酸素の消費が多い脳は酸素不足のためにぼおつとしたり、眠くなりやすくなります。同じように酸素を多く消費する筋肉はつったり、こむら返りが起こります。息切れや動悸も起こります。この疾患は知らず知らずに進行します。酸素不足を補おうと心臓は全身にたくさん血液を送ろうしますが、普段は息切れを感じなくても、階段を駆け上がった時に息切れや心臓がドキドキ

するのは酸素不足⇨貧血が疑われます。

悪性貧血

これはビタミンB12が欠乏して起きる貧血で、ビタミンB12欠乏性貧血とも呼ばれます。ビタミンB12は、赤血球を造る時の細胞分裂に必要な物質で、DNAの合成に関与しており、骨髄の中で赤血球になれなかった前段階の巨赤芽球がたたくさんたまってくるため、大球性貧血を呈し、巨赤芽球性貧血とも呼ばれます。ビタミンB12の欠乏の原因は、胃から腸でうまく吸収されないこととあり、胃酸や内因子の欠乏などが考えられます。自己免疫性胃炎に伴うものを悪性貧血と呼びます。胃を手術で全部とった場合も吸収されませんが、ただ、このビタミンは肝臓で4〜5年蓄えられるため、手術後数年経ってから巨赤芽球性貧血が起こります。

中高年の鉄欠乏性貧血

閉経後も鉄欠乏性貧血が続く場合は失血性貧血が疑われます。例えば、上部消化管から出血がある場合は、血が排泄されるまでに体内で酸化し、便が黒くなります。痔や子宮筋腫による出血もあります。最も注意しなければいけないのは、消化管の貧血の原因になっているかもしれないことです。これらの症状がなくとも、体がだるい、しんどい等の時は症候性貧血かもしれません。まずは血液内科を受診し、血液検査を受け、貧血の原因を調べなければなりません。

要です。

■金丸医師の診療時間は火曜・木曜の午前(学会などにより休診となる場合があります)